個人山行記

水晶岳・雲ノ平

7 月 26 日(月)～31 日(土)の 6 日間で北アルプスの水晶岳と雲ノ平に登って来た。コロナ渦の中だったが、安全対策を施して無事に登ることができた。

3 回目の水晶岳

水晶岳(2986m)は北アルプスの最深部の山で、どのルートから登っても山頂まで 3 日以上かかる深い山だ。今回は折立から雲ノ平経由で雨の中を登頂することができた（右写真)。

初回は 40 年前の奥多摩山岳会冬山合宿で､1 月に高瀬川から野口五郎岳に突き上げる高嵐尾根の道なき道を登った。15 名でラッセルを繰り返し 3 日かけて縦走路に至った。4 人のアタック隊に選ばれ、零下十何度の中ピッケル・アイゼンで登頂出来た（右写真)。山頂からは槍ヶ岳、笠ヶ岳や黒部五郎岳が凍り付く厳冬の風景は、今でも目に焼き付いている。

今回は野口五郎岳まで縦走し、40 年前の高嵐尾根をもう一度確認したかったのだが雨天で断念した。下山日の行動時間は 12 時間で日没との戦いだった。

雲ノ平の風景

期待通りに雲ノ平は花がいっぱいだった。ニッコウキスゲ、チングルマ、ミヤマキンバイ、ハクサンイチゲ、ヨツバシオガマなど種類は数知れず、特にコバイケイソウが豊作で一面に咲いていた（右写真)。雲ノ平も 3 回目だが､7 月下旬は特に花が多い。祖父岳の麓ではイワギキョウ、ウサギギク、フウロソウなどカラフルだった。

雲ノ平の大展望は百名山のオンパレードである。薬師岳（写真)、黒部五郎岳、笠ヶ

岳、槍ヶ岳、鷲羽岳、水晶岳そして赤牛岳と続く。昼間と夕方・朝ではその色合いも異なる。ここに宿泊してこそ楽しめる、変化する風景だ。

山小屋のコロナ対策

山小屋はコロナ対策がしっかり取られていた。定員半分で完全予約制、一人ずつアクリル板で仕切られ持参のシュラフカバーで寝る。布団・毛布の使用は自由だった。食堂もアクリル板で仕切られ少人数の交代制だ。食堂での飲み会は禁止でマスクのチェックが厳しかった。宿泊者は単独か２、３人の少人数で、集団のパーティーはいなかった（写真）。

登山道は人が少なく少人数パーティー、単独行だと人と話す機会も少なく下界にいるよりずっと安全だった。

車窓風景

コロナの心配な公共交通機関をやめ、自家用車での個室とした。大都市の通過は避けて舞鶴若狭道、北陸道の裏日本ルートを通ったので、SA や PA での人出は少なかった。いつもは混む中国道の加西 SA も車が少なく、食堂は人が疎らだった（右写真）。

帰路で初めて世界遺産の白川郷を見物したが、全国からの車ナンバーで人出が多く最も危険を感じた場所だった。山の中は安全だとしみじみ思った。ただし富山往復の一人運転 1400 キロは緊張し疲れる。一人カラオケをしながらモチベーションを保った。

6 月初旬にワクチン接種 2 回目を済ませておいた。山小屋は少人数の予約であれば歓迎する雰囲気だった。山中で登山者は少なく、山小屋のコロナ対策もしっかりして安全と感じた。最も気を使ったのは遠距離の移動で、自家用車で個室とし大都市を通らないルートを使った。高速道路中の人出は例年より大幅に少なかったが、観光地の人出は多かった。山中は安全、道中は要注意、と感じた遠征登山だった。